

# Sou Sou 授業づくり支援ナビ

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業をどのようにデザインし、教師はどのような役割を果たせばよいのでしょうか。

相双教育事務所では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業デザイン例をWeb上の特設コーナー「SouSou授業づくり支援ナビ」にて紹介しています。ぜひご活用ください。

## ▶ 「対話的な学び」を具現する授業デザイン例

国語

図画工作

外国語

算数

美術

道徳

理科

体育

生活

保健体育

計 15 授業



## ▶ 「深い学び」を具現する授業デザイン例

国語

理科

保健体育

社会

図画工作

外国語

算数

美術

道徳

数学

体育

計 23 授業



## ▶ 各教科等において育まれる資質・能力を支える「自立活動」授業デザイン例

自立活動

計 2 授業

相双教育事務所 授業づくり支援ナビ

検索



令和  
7年度

相双教育アピール  
授業づくり編

未来を拓く教育を相双から

学びの質を高め  
豊かなものとしていくことにより  
子どもたちは  
学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解したり  
これからの時代に求められる資質・能力を身に付けたり  
生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになる

全ての子どもは  
学ぶことを通じて  
未来に向けて成長しようとする潜在的な力を持っている



福島県教育庁相双教育事務所

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70610a/>



# 「感じて動き出す」学びへ

福島県教育委員会  
「授業改善グランドデザイン」より  
(相双教育事務所 HP からダウンロードが可能です)

## 教師が「話す」授業から、 教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業へ

### 課題克服に向けた授業改善3つのポイント

#### 1 学び出す

「確かめたい」  
「考えたい」  
「やってみたい」

すべての子どもが課題解決の見通しをもったり、解決方法を選択したりして、自ら動き出そうとする授業にします。

#### 2 学び合う

「話したい」  
「聞きたい」  
「話し合いたい」

すべての子どもが友だちの話に耳を傾け、自分の考えを確かめたり、新たにしたり、磨き上げたりする授業にします。

#### 3 学びとる

「分かった」  
「できた」  
「がんばった」

すべての子どもが今日の授業で「自分は何がわかり、何ができるようになったのか」を実感できる授業にします。

## 「対話的な学び」の実現のために

### 「対話的な学び」

子ども同士の協働、教職員や地域の人々との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び (学習指導要領より)

### 時代が求める「対話的な学び」

現代社会は、社会や生活の在り方に様々な変化が起こる予測困難なものとなっている。正解が一つとは限らない社会において、子どもたちが個人と社会の Well-being を実現していくためには、自らの力で豊かな人生を切り拓き、多様な他者と共に豊かな社会を創造していくことが必要となる。特に、様々な要素を含む困難な問題を抱える本県であるからこそ、多様な他者との対話や協働を重視していくことが必要になってくる。

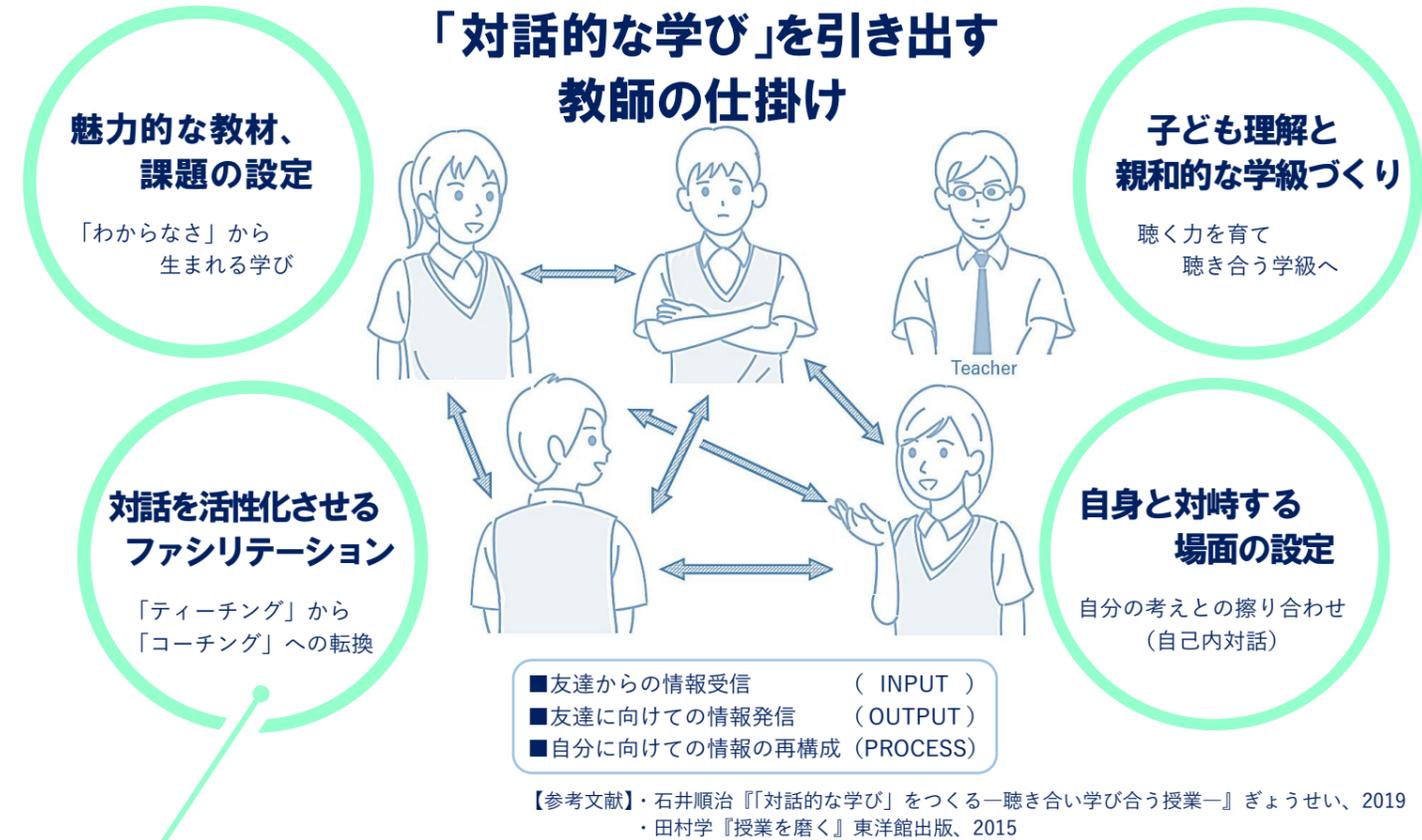
(第7次福島県総合教育計画より)

### 「対話」の基本事項 ～「話し合い」=「対話」とは限らない～

- ▶ 「対話」とは、「聴き合い」
- ▶ 「対話」とは、軸（課題）に肉付けする一連の営み
- ▶ 「対話」とは、他者と自分の考えとの擦り合わせ

## 【令和7年度 共通実践事項】

# 考えを広げ深める「対話的な学び」の充実



## 教師のファシリテーション

### ファシリテーション facilitation

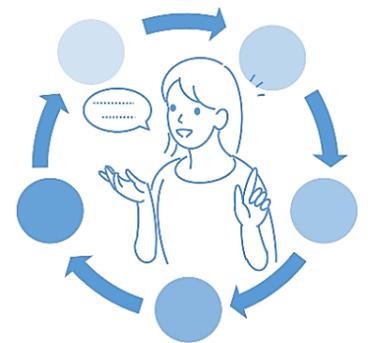
集団が持つ知的相互作用(対話)を促進する働き。人が本来持っている力を引き出し、相互にかけ合わせることで増幅し、集団の力を最大限に高めていくこと

(中央教育審議会『令和の日本型学校教育』を担う教師の在り方』特別部会資料「教師に求められる資質能力の再整理」より)

文部科学省『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)(令和3年1月)では、教師に求められる資質・能力として使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力とともに「ファシリテーション能力」が挙げられています。

子どもが主体的に学び、行動を起こせるように伴走者として「学び合い」の場を促進するファシリテーション能力が教師に求められています。

教師には、**子どもの力を信頼し、発言を促進しながら、子ども同士をつなぎ、思考を広げていく**役割があり、次のような意識を持つことが大切になります。



**子どもの持つ「自ら気づき学ぶ力」を引き出す**  
子どもの力を信じ、主体的な学びを支援する**伴走者**になりましょう。「ティーチング」から「コーチング」へ転換しましょう。

**「語り手」でなく「聞き手」になる**  
授業の主役は「子ども」です。「問」や「沈黙」をおそれず、時には「忍耐強く待つ」ことも大切です。

**子どもの学びを受け入れつなぐ姿勢をもつ**  
子どもの考えや発言をつなげ価値付け、よりよい考えに高めていきましょう。

【参考】福島県教育委員会「ふくしまの『授業スタンダード』」2017、pp.4-5 見取りと支援について  
福島県授業改善研究会「授業をつくる16の視点」2013、pp.50-53